

アクセス方法
 <車>
 那覇空港から車で2時間
 沖縄自動車道「許田IC」から1時間（国道58号線を北上）

memo



小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>

小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 157

うーうみとおばあ
 ～沖縄県 大宜味村～

2014年9月21日(日) 放送



芭蕉布づくりの中でいちばん時間がかかるのが「うーうみ」
 芭蕉布づくりの中でいちばん時間がかかるのが「うーうみ」
 と呼ばれる糸紡ぎ。汚れを取り除いて乾燥させた糸芭蕉
 の繊維を細く割いて結び、一本の糸にしていきます。
 着物一反分にするには2万2千回紡ばなくてはなりません。
 根気と熟練の技術がいるこの作業は昔からおばあち
 の仕事でした。集落を歩くと縁側でおばあが、せつと
 うーうみに励んでいる姿が見られます。うーうみは、
 おばあたちの生活の一部。昔、うーうみをしてない
 心にほっこりと穴が空いたように寂しいと言います。

うーうみ

旅の見どころ 3



50年以上前から作られている芭蕉布(ばしょうふ)は、庶民の日常着でありながら、里民の王族にも愛されてきた織物でした。地の生成色の糸に琉球藍(りゅうこうあいらい)や車輪梅(しゃりんばい)など植物染料で染め上げた鮮やかな藍色、赤、黄色の煮綴(にーかじー)芭蕉布。「トソボの羽」に例えられるほど、薄く軽い芭蕉布は、蒸し暑い沖縄の気候にあった涼しげな肌触りが特徴です。喜如嘉では、沖縄の人々を魅了してきた美しく繊細な芭蕉布を、今も作り続けています。

芭蕉布

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

喜如嘉(きじょか)集落

人口430人ほどの小さな集落、喜如嘉は沖縄県内一の芭蕉布の産地です。青い海と深い山々に囲まれた喜如嘉は、平地が少なく農作物が育ちにくい土地であるうえ、大正時代、男たちは船大工として村外に出て働いていました。そこで女たちが村を守るために、生命力が強い糸芭蕉を栽培し、芭蕉布づくりを産業にしていきました。集落内では青々と輝く芭蕉畑が点在し、女性たちによって手入れがされています。芭蕉布会館では、糸作りから織りまでの作業を見ることができます。

